

agenda

01 福山駅周辺の路上喫煙防止対策



報告

- 環境美化条例改正により、市内全域で路上喫煙を制限し、駅周辺では「路上喫煙制限区域」を設定した。
- 分煙環境整備のため、駅周辺に2か所の喫煙所を設置したが、駅構内の観光案内所に50件/日の問い合わせがある。
- 現在も路上喫煙やポイ捨てが見られるため、駅の南北にそれぞれ喫煙所を整備していく予定。

意見

- ✓禁止看板などが多いとまちの印象が良くなる。喫煙所をきちんと作ることも大事。
- ✓駅周辺に喫煙所を整備する場合、駅舎や多様な人の通行への影響などを考慮し、場所を選ぶ必要がある。
- ✓駅から人の流れを拡げるのであれば、喫煙所は距離をとって設置してはどうか。
- ✓路上喫煙禁止を効果的にするには、路上で喫煙しないことを習慣化するような意識づけも大切。

福山駅前デザイン会議

2023
no.01

7月25日（火） 14:00～16:00
福山城 月見櫓



agenda 02 福山東警察署駅前交番の移転

報告



- 駅前交番の新庁舎が、2023年3月に完成。安心安全なまちづくりに貢献するための拠点として機能させていく。

意見

- ✓交番跡地は、駅前広場再整備と合わせ重要な場所として認識している。跡地利用は、駅前のまちづくりの観点から計画してほしい。
- ✓行政は、思いのある民間事業者を後押しする姿勢が重要。その思いに対して公的な支援をしていく必要がある。

agenda 03 ふくまちエリア価値創造フォーラム

報告



- 今年度のフォーラムは、「エリアマネジメント」を主題に全3回開催。
- アフターフォローを強化するため、フォーラム開催後に専門家によるゼミを開催する。
- ゼミを通じて具体的なアクションへつなげていく。
- 行政の参加も大事であり、部署を問わず幅広い視点で、ふくまちエリアのまちづくりを考える取組を推進していく。

agenda 04 福山駅前広場整備基本計画策定に向けた今後の進め方

報告

- 2023年3月に駅前広場整備基本方針を策定。
- 基本方針では、広場空間を分散する案を基本に全面広場化する案の実現可能性の検討を進めている。
- 検討項目は、施設・動線・運営などで、福山城の遺構を生かした空間の検討のため協議会の分科会もオープンで進める。
- 今年度は基本計画（案）の検討、次年度に計画を策定する予定。

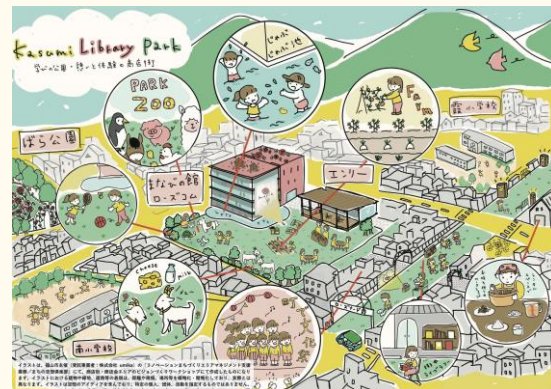
意見



- ✓駅前広場協議会では、ほとんどが全面広場化を支持している印象で、福山ならではの魅力的な空間づくりのためにも、全面広場化が必要であると考えている。
- ✓全面広場化するには、駅前広場外へのバスターミナル配置も必要であり、広場沿道の地域なども協力意向がある。今後も議論を進めていきたい。

05 商店街のエリアビジョン策定, 社会実験

- 商店街ごとのビジョンを考えるワークショップを開催し、4つの商街・商店会でビジョンが作成された。
- ビジョン実現に向けた補助制度も創設した。今後も商店街支援を通じて、駅周辺を含めたエリア全体の価値向上を図る。



霞銀座商店街から

- ビジョンは、公園の要素を取り入れ、商店街として新たな価値を提供するもの。
- 中央公園との連携で人が集まる状況を作りたい。
- ビジョンのイメージデザインでは、商店街でのゆったりとした過ごし方を提案している。文化的で子どもも楽しめる空間をめざしている。



商店街の歩道に芝生を張る社会実験を計画中

将来の商店街のイメージ



意見



- ✓ 商店街との連携が取れる動きを考え、連携を強化していきたい。
- ✓ 世界バラ会議に向けて商店街のリニューアルにばらをアイテムとして取り入れてはどうか。
- ✓ 市では、丈夫で育てやすい品種のばらを広めている。商店街とも連携を図っていきたい。

意見交換

～官民連携について～



- ✓ 官民連携は他地域の成功をなぞらず、新しいアプローチをし、官と民が共に働くことが大事。それぞれの立場で役割を認識して進めていく必要がある。
- ✓ 駅周辺のプロジェクトには、民間がワクワクする情報発信が必要。実態に基づく情報発信や社会実験など、素早い動きがまちづくりには重要である。
- ✓ 情報発信の方法としては、社会実験が有効である。このようなチャレンジを通じ、連携すべき民間事業者を見つけ出す必要がある。

- ✓ 行政だけで企画や計画する事業は成功しない。早期に官民が連携し、共に駅前の課題についての計画を作る仕組みが重要である。
- ✓ 行政は、公平性や平等性に留意する必要があるが、民間のワクワクするアイデアを尊重し、公平に受け入れることが必要である。
- ✓ 多くの人が関わることで情報が広がりやすくなり、集まりやすくなる。駅前の取組の情報を伝えるため、公の情報の信用力を活用することが重要

06 iti SETOUCHIの運営状況

- リムふくやまりノベーション再生事業は、駅前再生の一環として、デザイン会議などで議論し、進めてきた。
- 「福山の未来を育てる」「人と人、人とまちのつながり」をコンセプトとし、運営事業者と市が連携してエリア価値を高める取組を行っている。

運営事業者から



- 私たちは、施設運営のプロではないが、地元への思いから社会運動として施設運営をスタートした。これが他へのモデルケースになればと考えている。
- 官民連携が重要で、各行政機関と連携し、地域再生を進める。子どもの遊び場づくりや教育の観点で行政のサポートが必要である。官民連携は形だけでなく、その後の運営も重要。

- フロアは商業・フード・ワークエリアなどに分かれ、2023年3月末までに貸オフィスは23区画中12区画、店舗は7区画が埋まり、イベントに約2.6万人が来場している。
- リノベーション再生事業評価協議会で運営の成果や課題について意見交換を行っており、「コンセプトに沿った運営がされている」と評価されている。

- プレーヤーとして、マンパワー不足を補いながら魅力的なコンテンツを提供したい。
- 官民連携によってソフト面・ハード面の両方で潜在的な可能性があると感じており、引き続き試行錯誤しながら地域再生を進めていく。

- ✓ 官民連携を進める上で、セグメンテーションが重要。特定のターゲットに焦点を当てることで、魅力あるコンテンツができる。

- ✓ 民間事業者の選定方法の例として、RFQ（資格審査）とRFP（提案審査）のプロセスを経て、評価の高い事業者はRFPの段階で加点をする。RFQ段階からリスクを取る事業者に加点する仕組み。良い成果を得るため、適切な審査会を組織し、審査会の質を向上させることが公平性の確保につながる。